

# 名誉顧問のコモンセンス

## 文章とその真意

### 我が「アネクドート」

すべての文章は  
それを読むあなたのために書かれている



**逸話の真意** 今回のこの「文章とその真意シリーズ」は、偉人たちの有名な言葉や文章について、「実は……」とその人が真に言わんとしたことについて、私個人の解釈でご紹介しようというものです。英語の「アネクドート」(anecdote)には、よく知られている「逸話・小説・秘話」の他に、「私見・個人の感想」という意味があります。むろん、ここでの私の「アネクドート」とは、この二つの意味を兼ねた「逸話の真意」のことです。よく知られた「アネクドート」(逸話)にもかかわらず、その「真意」が伝わっていない場合が多々あります。それを「アネクドート」(私見)で語ろうというのです。

あらゆる文章は、読む人のために書かれています。書かれたものは、だれが、どう読んでも良いのです。ドイツのゲーテの『ファースト』も、ロシアのトルストイの『戦争と平和』も、フランスのフロベールの『ボバリー夫人』も、日本人のあなたが読んで良いのです。それをどう読もうと勝手です。好きなように読んで良いのです。フロベールは言いました

— 「ボバリー夫人はわたしだ」。「おや、フロベールは女性だったのか」と思ってそのつもりで読んで良いのです。フロベールも、実はそう思って欲しかったのですから。

**真意に近づく** 芭蕉の俳句もそうです。「古池や かはずとびこむ 水の音」のかはずは「一匹だ」「たくさんだ」と色々意見があります。それぞれ、なん匹蛙がいてもいいのです。読む人の「アネクドート」（個人の感想）が大切なのです。どう読まれようと、作者の芭蕉に責任はありません。でも、勉強は大切です。勉強すれば、より多面な「真意」に近づけるからです。「古池や」の俳句については、私の書いた本『かえるはなん匹？ 芭蕉の『古池や』の謎を解く』をお読みいただければそれで十分です。ここでの蛙は、一匹でなければならないことがお分かりになります。どこにも、「真意」はあるのですから。

では、まず、宮沢賢治から始めましょう。賢治の「アネクドート」にも真意があります。

## 1 宮沢賢治 「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」

### 真意

この賢治の文章が凄いのは、「世界ぜんたい」のことを言っているのです。個人が幸福になるには、「世界中の人が、一人残らず幸福になること」を条件としてしているのです。世界中の人の中には、当然、あなたも含まれます。したがって、賢治の真意は、「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ないのだから、先ず、あなたから幸せになりなさい」と言っているのです。これは、凄いことです。賢治の言葉を読んでいる人に、直接話かけているのです。他のだれでもありません。あなたなら、あなたへです。家で賢治の本を開いて読んでいる歳とった老人のあなたへです。家事の合間に読んでいる主婦のあなたへです。学校で教科書に書かれているこの賢治の言葉を読んでいる児童や生徒や学生のあなたへです。そのあなたから、「先ず、幸せになりなさい」と言っているのです。さて、ここで、宮沢賢治がいう「個人の幸福」とはなにかと言えば、「雨にも負けず」の人物になることです。他の人のためにつくす人が幸せなひとになることが賢治の言う個人の幸福なのです。困っている人を助け、人から喜ばれ、感謝され、友だちになり、親しい仲間を増やす人です。そして、そういう「雨にもまけず論」と「世界ぜんたいの幸福論」は、一連で、賢治の念願になっているのです。さあ、この賢治の言葉を読んだあなたは、いまから、他人(ひと)には、優しく、親切にしましょう。そうすればあなたは幸せになり、世界中の人がそうすれば直ぐに世界ぜんたいが幸せになる — 賢治はそう言っているのです。それが賢治の言葉の「真意」ですから、実行第一です。さあ、幸せにおなりなさい。

## 2 夏目漱石 「アイ・ラブ・ユーは 月が綺麗ですねと訳せ」

### 真意

「アイ・ラブ・ユー」は、だれが訳しても、「私はあなたを愛してます」としか訳しようがありません。それなのになぜ、漱石は、「月が綺麗ですね」などと訳せと言ったのでしょうか？ いえ、実はこれは反対なのです。「月が綺麗ですね」を、「私はあなたを愛してます」と訳せと漱石は言っているのです。初めてデートの約束をしました。ふたりだけで街を散歩したり、公園へ行って二人でボートに乗ったりしてとても幸せでした。でも、そろそろ、夕方になってきてお別れの時が近づいてきました。これが、最初で最後の機会かも知れません。別れる前に、「私は、あなたが好きです」とどうしても言いたいのです。でも、相手の気持ちが分からないので、とつぜんそんなことを言ったら、笑われるかも知れません。また、気分を害されて、もう会ってもらえないかも知れません。丁度、月が昇り始めました。仕方なく、「アイ・ラブ

・ユー」の替わりに、「月がきれいですね」といいました。すかさず、相手は、「花のいい香りがします」と応えました。そうです、相手の言葉も、実は、「アイ・ラブ・ユー」なのです。さあ、そっと手をにぎりましょう。

### 3 夏目漱石 「なぜ、雨の日でも グッド・モーニング」か？

今日も、中学の英語の教師をしている珍野苦沙弥(ちんのくしゃみ)先生のところへ仲の良い仲間たちが集まってきました。先生は、まだ、学校から帰ってきていません。奥さんを相手に悪友たちは、留守をいいことにくしゃみ先生をからかい始めました。「学生から、『雨の日でも、なぜ、グッド・モーニングですか？』と訊かれて答えられなかったってさ」。みんなは笑いました。話は、また、先生の他の失敗談に移ります。これは漱石の小説『吾輩は猫である』に出てくる話です。でも、その学生の質問に対する答は、この小説のどこにも書かれていません。質問は質問のままで終わっています。これでは、質問した学生も、読んでいる人たちも、分からないままで終わってしまいます。先の「アイ・ラブ・ユー」でも、真意は述べません。それが漱石の流儀です。漱石は照れ屋で、偉ぶって自慢したり、知ったかぶりをして上から人に教えたりするのが嫌いでした。それは、江戸っ子らしく、粹じゃないからです。それで、答はわざと書かないのです。各々、自分で考えるより他、ありません。

#### 真意

「グッド・モーニング」は、その日の朝の天候のことではないのです。朝のあいさつなのです。あいさつは、常に相手を祝福するものです。「今日も、あなたにとってグッド・モーニングでありますように」というお目出度い言葉です。嵐の日だからと言って、「バッド・モーニング！」などと言ったら喧嘩になります。日本語の「おはようございます」もまた、朝早く出会った人にいうあいさつの言葉です。「今朝も早くからご活躍ですね。お元気でなによりです」という誉め言葉なのです。芸能界では、午後から劇場に顔を出した役者さんが、すでに舞台上で背景の装置や照明や音響の用意をしている裏方さんたちに、わざわざ「おはようございます」というのもその誉め言葉なのです。「こんにちは」などどとあいさつしようものなら、「いまごろ出てきて、なにがこんにちはだ。俺たちは朝早くから仕事してるんだぜ」などと剣突(けんつ)を食らわされるからです。それで、「おはようございます」となるわけです。

### 4 松下幸之助の「嫌な奴はみんな死んだよ」

パナソニックの創業者松下幸之助さん(1894-1989)は、95才まで長生きしました。晩年、集まりがあると、「長生きして、なにか良いことがありましたか？」と訊かれることがよくあります。これは、お年寄りにとって意地悪な質問です。古代ローマの哲学者で政治家のキケロの有名な論説『老いについて』では、「人は老境に入ると楽しみがなくなる」と嘆いているからです。まず、「相手にされなくなる」、そして、「決まった仕事ができない」「肉体がよわってきて、健康が維持できない」「老人は嫌われるのではないかと不安になる」「肉体的にも精神的にも楽しみが減る」「いつも死についておびえている」などと老いの苦しみと嘆きを訴えています。それで、松下さんの答が、「良いことなんか一つもないよ」となるのを期待しての質問です。でも、松下さんの答は、意外にも、「ああ、良いことは、嫌な奴がみんな死んだよ、ワハハハハ！」でした。そこで、みんなも一緒に笑いました — 「ワハハハハ！」。

#### 真意

でも、松下さんの真意は別でした — 「嫌な奴はみんな死んだ。だが、仲の良かった親友もほとんど死んだ。年をとることは寂しいことだ」。古今集に、

「老いらくの来むと知りせば門(かど)鎖(さ)して なし[いない] とこたえて会  
わざらましを」があります。これが、年寄りの「真意」です。

## 5 マリー・アントワネットの「パンがなければケーキを食べたら」

革命が起きたとき、ルイ16世と王妃のマリー・アントワネットは、パリではなく、ヴェルサイユの宮殿にいました。ヴェルサイユはパリから約20キロ離れているので片道約5時間の道のりでした。この秋は凶作で、パリでは食糧が不足しパンが急騰して市民の不満が募(つの)っていました。そんなとき、国王がヴェルサイユ宮殿に招いたフランドル連隊の歓迎の宴会では食糧がふんだんに出されていました。10月5日、ついに家族の食料に飢えた七千人近い女たちは、パリ市庁舎に集まって、ヴェルサイユ宮殿に向かって行進を始めました。午後になって女たちが到着したときには、雨にぬれ、泥にまみれたあわれな姿でした。国王は狩猟に出かけて留守だったので4時間近く待たされてようやく王と面会しました。翌朝、あけがたの6時に、王さまと直接話をつけたいおんなたちは防備のすきを見て宮殿内に押し入ったので、王妃マリ＝アントワネットは寝間着のまま部屋にかけこみました。女たちは、「王よ、パリへと帰れ」と命じてパリに向かって行進を始めました。パリに着くと、「わたしたちは、パン屋とパン屋の女房と小僧をつれてきたよ！」と叫びました。

### 真意

このとき、女たちから脅されたマリー・アントワネットは死を覚悟しました。食糧を執拗にねだるおかみさんたちに、聖書からイエスの言葉を引用して健気に立ち向かいました — 「イエスさまは、人はパンのみにより生きるにあらずと仰った。あなたたちがそんなにパンに困っているのなら、イエスさまの言うとおりに、パンはあきらめてケーキを食べればいいのです」。

さて、まだまだ、「アネクドート」はつづきます。

【2025/08/25 都築正道】